

授業研究部(小学校・中学校合同)1月例会

1月15日(水)にイーブルなごやで、授業研究部(小学校・中学校合同)1月例会を開催しました。今回の例会では、名古屋市立岩塚小学校の岡田拓未先生と名古屋市立矢田中学校の西弘満先生から、それぞれの実践についてお話していただきました。

1. 小学校の実践

○ 「話し合う力を育てるための話し合い指導」

「話し合いに参加する人数」と「個人の話す・聞く量」が反比例の関係にあることから、岡田先生が話し合う力を育てるために実際に取り組みされた「ペアトーク」を、参加者全員で体験しました。【写真①】

その中でも、「目を合わせる」「話を続ける」「アイデアを増やす」「アイデアをしぼる」といった、「話し合う力」を身に付けるために必要な事柄に重点を置きました。

○ 「複数の意見をまとめるための活動例」

「自由移動交流」【写真②】と「三角シート」【写真③】を紹介していただき、実際に体験しました。

自由移動交流とは、参加者が、自分の席を立って自由に移動して他者と交流する活動です。今回は、参加者それぞれが、付箋に自分の売りたい商品を書き、それぞれの商品について、他の参加者とプレゼンテーションしました。互いの商品を紹介し合ったところで、相手の商品を買いたいと思ったら、自分の商品ではなく、相手の商品と一緒に他の参加者にプレゼンテーションしていきます。2人から4人、4人から8人という風に次第に同じ商品を紹介する参加者が増えていきました。

次に、紹介した商品の良さを、3人のグループでまとめる活動を行いました。【写真④】その際に使用したものが三角シートです。三角シートは三角形が4つ集まってできています。中心の三角形には、商品の名前が書かれており、その周りの三角形にはその商品の魅力が書かれています。それをあわせ、大きな三角形を作りながら、互いの意見をまとめていきます。

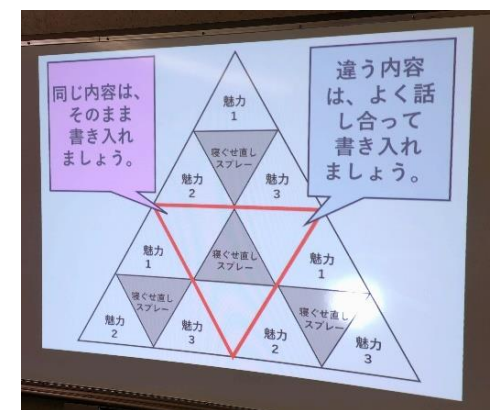
参加者同士で、商品の魅力を話しながら、同じ意見と違う意見を視覚的に捉えることができ、話をまとめていくのに有効なツールであると感じました。



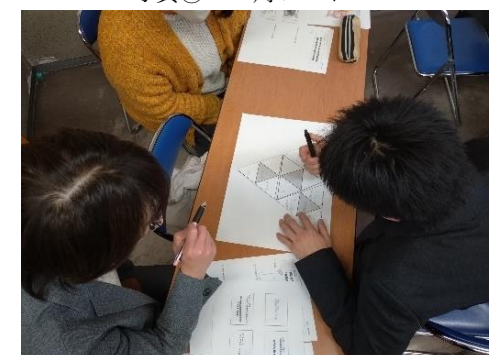
写真① 参加者によるペアトークの様子



写真② 参加者による自由移動交流の様子



写真③ 三角シート



写真④ 三角シートを用いた話し合いの様子

2. 中学校の実践

○ 「<読みの授業における自走する学び>を目指して」

今回は、「日本の花火の楽しみと「水の山 富士山」の二つの教材を読み比べるという単元での実践を紹介していただきました。「読むこと部会」では、【資料①】のような流れを大切に「読むことの授業における『自走する学び』」の授業実践を進めています。また、「目指す『生徒の自走する姿』の定義」についても紹介していただきました。【資料②】

続いて、具体的な実践の様子について紹介していただきました。

はじめに、【資料①】にある「個々のめあてをもつ」場面について説明していただきました。【資料③】

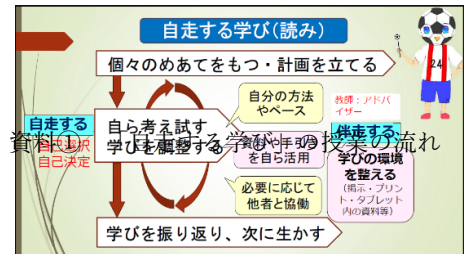
「個々のめあてをもつ」場面で大切なことは、生徒たちが「読みたい」と思えるような課題を設定することです。今回の実践では、「教材の価値や主題に関わる課題を設定すること」を大切にしました。

この実践では、単元のゴールを「審査員として『〇〇大賞』を決定しよう」と設定しました。【資料④】「〇〇大賞」の部分を生徒自身に考えさせることで、生徒一人ひとりが個別の読みの課題を解決するために学び方や学ぶペースを自己で決定し、それが自走する学びにつながることを狙いとしています。

生徒たちはまさに自走する学びを実践しているようでした。

最後に、本実践の課題についても挙げていただきました。印象に残っている言葉は「強制的に自走させていた」です。今回は実践では、手立てを通して生徒たちに自走を促していましたが、目指す姿は、どのような教材でも、どのような場面でも生徒たちが自分から「読みたい」「学びたい」と思い主体的に文章を読もうとする姿です。西先生は「あらためて、読むことにおける自走する生徒の姿とはどのような姿なのかを考えたい」とおっしゃっていました。

「自走する生徒の姿」については、大きなテーマとして考えていく必要性を感じました。



資料① 「自走する学び」

『日本の花火の楽しみ』の読み比べ
『水の山 富士山』

- ① 文章と図表などを結び付けながら内容を捉える。
- ② 説明の仕方という観点に着目しながら、2つの文章を読み比べる。
- ③ 筆者の考え方を捉え、自分の考え方をまとめる。

<目指す生徒の自走する姿>
2つの文章を比較して、文章構成や展開、表現の違いを明確化し、その効果を考え続ける生徒

資料② 「生徒の自走する姿」の定義

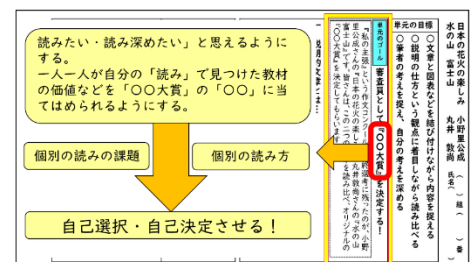
1 個々のめあてをもつ → 主体的な課題設定にする

① 教材の価値・主題に関わる課題を設定する。

『日本の花火の楽しみ』 最初に、筆者の意見、その後、その根拠、写真と文章とを照らし合わせて読むことで、本文理解につなげられる。	『水の山 富士山』 冒頭に2つの問い、その後、問いの解明、写真などの情報を正確に読み取ることで、本文理解につなげられる。
--	---

1つの文章では筆者の工夫などを客観的にとらえづらいが、読み比べることで、文章構成や展開、表現の違いを明確化でき、その効果を考えられる!

資料③ 「個々のめあてをもつ」について



資料④ 「単元のゴール」について

授業研究部は、来年度以降もできるだけ日ごろ先生方が感じている疑問や悩みを解決できる場でありたいと考えています。もし、授業研究部（中学校）で扱ってほしい教材や分野があれば下記までお知らせください。また、「過去の例会の資料が欲しい」という方も、できる限り対応させていただきますので、よろしくお願いします。

○ 問い合わせ先：大森中学校 熊谷

Tel:798-2900 FAX:799-0465 E-mail:kumagai13@nagoya-c.ed.jp

※ スズキ校務のメッセージでも構いません